



中央検査部だより



2019年1月吉日発行 第67号

新年のご挨拶

中央検査部部长 上田一之

新年明けましておめでとうございます。皆様には平成最後のお正月をどのようにおすごしになられたでしょうか。我が家では例年のごとく愛犬と共に食っちゃあ寝、呑んじゃあ寝、テレビを見ながら寝、初詣して帰っては寝、の寝正月だろうと、現時点では確信しております(編集の都合上、年末に書いていますので・・・)(笑)。なんにしても本年が皆様にとって良い年でありますように心よりお祈りいたします。

さて、我が山口県立総合医療センター中央検査部では今年はいよいよ検体自動搬送システムが導入されます。採血された患者さんの検体をこの機械に乗せるだけで自動的に主治医よりオーダーされた項目を測定する検査機器へ搬送し、必要項目を測定し電子カルテ上に結果を表示するという、我々スタッフが渴望していたシステムです。これによりヒューマンエラーが回避され、また軽減された仕事量を他の検査部門へ回すことも可能になり、検査部全体としてますます迅速で正確な検査結果を報告できることになることをお約束します。

本年もどうぞよろしくお願ひします。

今年は検査部から目が離せない！乞うご期待！

中央検査部技師長 渋田 秀美

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月から中央検査部技師長を務めさせていただきましたが、次々と目の前に差し出され、積上がっていく多くの課題をがむしゃらに処理していくという、とても慌ただしく感じた1年でした。技師長職に不慣れであることも一因ではありますが、とにかくイベント事が集中した特異な1年でした。電子カルテの更新に伴う部門システムの更新、検体搬送システムの新規導入に伴う検査部内レイアウトの変更、さらに国際認定ISO15189の更新審査が同時進行で行われたのですから、無理もありません。

全てのイベントを持ち越しての年明けとなりましたが、これからはゴールを見据えてのラストスパートとなります。気を引き締めて、検査部全員が一丸となって、ゴールテープを切りたいと思います。

検査部では常々、医師、看護師をはじめとした他職種医療従事者の負担軽減を念頭に、業務改革を進めてきました。昨年は自部署の忙しさでじっくり向き合うことができなかった分、今年は検査部一丸となり努力してまいりますので、ここに更なる御指導、御協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。

より安全な顕微授精が可能になりました

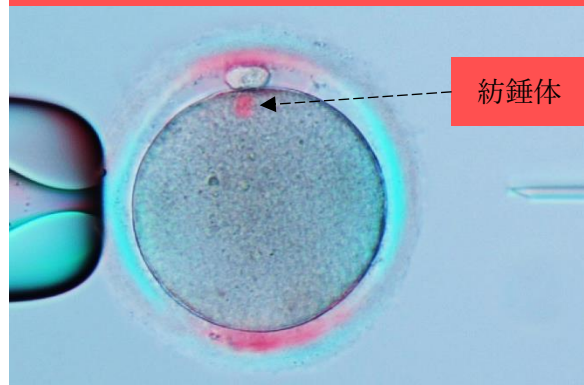
2018年8月から、生殖医療室では新たに紡錘体可視化装置を導入し、紡錘体を傷つけることのない顕微授精が可能になりました。

紡錘体とは成熟卵子の細胞質に存在し、細胞分裂の際に染色体を分離させるための重要な構造体です。しかし、紡錘体は一般的な顕微鏡では確認するのが難しく(左図)、顕微授精で針を刺す際に紡錘体を傷つけている可能性があります。紡錘体が損傷すると、受精率は低下し、発育にも悪影響を及ぼすことが分かっています。

通常の顕微鏡では判別できない・・・



可視化装置使用で紡錘体の位置がわかる！



今回、紡錘体可視化装置を導入することで(右図)安全にICSIができ、受精率の向上や、発育率(胚盤胞到達率)の向上につなげることが出来ました。

2018年

導入前

導入後

受精率

76.5%(114/149)

85.1%(40/47)

発育率

52.6%(60/114)

67.5%(27/40)

生化学検査室紹介

生化学検査室は、現在6名のスタッフで検体検査・機器メンテナンスなどの業務を行っています。最新のトピックは今年度より検体搬送システムの運用が始まることです。この運用は、検体検査の効率化を図り担当人員を削減し、生理機能の拡充やヒューマンエラーによる検査結果遅延を防ぐことが主な目的です。同時に、検査情報システムもシスメックスCNA社製に変更になります。搬送システムと連携することで検体を一元管理でき、検査所要時間の把握や追加検査時の検体量の確認などを迅速に行うことが出来るようになります。

電子カルテの更新と同時に運用が開始されるため、導入当初は臨床での混乱や予期せぬ問題で先生方にお手数をおかけするかもしれません。円滑に導入できるよう尽力致しますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



編集委員：守田、山本彩、岩根、田島、田尻、江木